

# 国公女性協News

2012.8.13  
NO.254

国公労連女性協議会  
Tel: 03-3502-6363  
Email: mail@kokko.or.jp



## 第42回 国公女性交流集集會報告 ☆第4弾☆



今号も前号に引き続き国公女性交流集集會特集です。今号で集會特集は最後です。

### ☆第4分科会☆ 放射能から身を守る食生活 ～わかると食べられる～

助言者：太田 美登里さん  
司会者：美馬 恭子さん（全医労）  
記録者：木本 麻貴さん  
（国土交通）  
参加者：85名



#### ○講演概要

放射能汚染は東北から離れた所でも関係がある。東北からの回遊魚や、小魚を大きな魚が食べて放射能が濃縮することもある。

50代以上の人は恐れる必要はないが、妊産婦、授乳婦、子どもはDNAを傷つける恐れがあるため要注意。

フィンランドでは放射性廃棄物を100m地下に収納する計画があるが、無毒化に10万年かかる。原発から出る放射性廃棄物は、それくらい深刻な放射能を出している。

放射能を含む食べ物をとり続ければ、内部被ばくは続く。食べ物に気をつけるかどうかで、チェルノブイリでは体への影響が違った。アメリカでは原発100km圏内と圏外の住民で乳がんの発症に違いがあった。こうしたことを考えても、原発をなくしていかなければならない。

セシウムによって心臓、腎臓、血液などに異常がでる。内部被ばくから身を守るコツとしては、食材は洗う、浸す、茹でる、煮込むこと。薄く切って煮て煮汁

を捨てると良い。デトックス（排毒）のため、野菜、果物、海藻など、食物繊維をたくさんとる。

体内にとりこみにくくなる食材は、海藻、野菜、いも類など。野菜は350g、両手のひらに山盛りいっぱいくらいとる。プラスしてきのこや海藻などを食べると良い。カルシウムも良いので、塩は「天然塩」が良い。肉や魚に天然塩をふりかけておくと、悪い物質が排せつされると良い。カルシウムも良いので、塩は「天然塩」が良い。肉や魚に天然塩をふりかけておくと、悪い物質が排せつされると良い。カルシウムも良いので、塩は「天然塩」が良い。肉や魚に天然塩をふりかけておくと、悪い物質が排せつされると良い。

心がけることとしては、運動、「笑う」、「温める」こと。笑うたびに免疫力が上がるので、笑って食べられる食卓を。

控えるものとしては甘いもの



と冷たいもの。ビールが飲みたい時は温かい飲み物を飲んでから。肉、揚げ物、インスタント食品、加工食品は控えること。

#### <参加者の感想>

○すぐにも生活に取り入れたいことばかりでした。なるべく食生活を改善したいと思います。  
○放射能の問題はこれから先も考えていかなければならない。  
○早急に代替エネルギーを用意し、原発は1日も早くなくしてほしい。

### ☆第5分科会☆ ハンセン病って？ ～人権問題にどう関わるか？～

助言者：白川 恵介さん  
酒井 光雄さん  
司会者：近藤 恵子さん（全医労）  
記録者：谷脇 美鈴さん  
（実行委員・全医労）  
参加者：35名

まずは、ハンセン病についての説明を資料をもとに助言者の白川先生が行いました。その後、ドキュメンタリー映画「風の舞」の上映、感想文を記入し、助言者から元患者との関わりについてお話がありました。

（白川）これまで人権問題はどのように教育で扱われていたかという、学校それぞれで扱っ

ていた。3年前にやっと文科省が重い腰を上げて、人権問題の指針を出した。その中にハンセン病回復者の問題も上がっている。小学校の各学年により人権問題が違う。ハンセン病問題は小学6年生で取り上げている。映画の中で、塔さん（詩人で元ハンセン病患者）も言っているように、「関わる」ことが大事だと思う。自分とは違う世界という認識で終わりがちだが、どう関わるか。どうアプローチするかが大事。モニュメント「風の舞」を建てたのは、酒井さんをはじめとする市民。酒井さんをスポットにあてて関わることを学習している。自分は差別しないで終わらせずにどう関わるかが大事だと思う。

（酒井）昭和48年に高松療養所（結核の療養所）に就職。当時でも結核の療養所に対する差別があった。初任者研修は大島青松園で2泊3日であった。その時「医学、科学に100%はないが、ハンセン病はうつることはない」と説明を受けた。外に出られない入所者のために、手作りの「夏祭り」をした。連れて行った子どもたちに、事故やけがをした人をどうも思わないように、その感覚と一緒に教えて。教育が大事。

ハンセン病患者は昭和20年まで公民権もなく、昭和54年までは郵便局の利用も制限され、昭和60年までは官用船の席までも決められていた。(大島にみんなで遠足に行こうという)かわせみ探検隊には多くの応募があったが、大島青松園のパンフレットを申込者に送ったら、10世帯あまりからその後、音沙汰がなくなった。まだ差別は残っていることは残念だ。

(感想文からでた質問項目)

「ハンセン病の患者に関して、外国ではどのように対応されたのか?」

→プロミンという特効薬が出てからの対応は、日本は遅かったと思う。外国とは4年の差がある。日本は、ハンセン病患者を神社などで浮浪させていたが、外国は教会で保護していた。明

治からは強制隔離につながっていった。

「入所者の方々は島に残りたいのか?」

→ここ8年で入所者数も半分になっている。将来についてのアンケートでは、島に残りたいという人が多く、ふるさとに帰りたいという人は少ない。

(参加者からの質問)

「患者数について質問。なぜ患者数が多い時代があったのか?」

→浮浪者が多かった。家で療養していた人も強制隔離していった。



「戸籍はどうなっているのか?」  
→そのまま残っている人もいるし、家族が存在を知らなかったというケースもある。

<参加者の感想>

○ハンセン病の歴史、実態を知り、衝撃を受けた。知らないことは大変な罪だと思った。

○ハンセン病問題は知っていたが、映画を観て、患者さんたちが人権を奪われた想像を絶する人生だったことを知り、涙がとまりませんでした。自分がどうかかわっていくか、これから考えていきたいと思います。

<全体を通して  
参加者の感想>

○初めて参加しましたが、また来たいです。同じ国家公務員でも色々な仕事があり、みんな誇りを持って働いていることが伝わってきました。

○今職場には将来への不安が渦巻いています。今後は「公務員の不利益は国民の不利益」というふうに、多数の賛同を得る運動に進めていくことが大事と思いました。

○地元に戻って報告したいと思う集会っていいですね。

○みんなでぐちをぐちを要求へ そして運動へ

全体会

全体会は分科会報告で始まり、第1分科会から第5分科会まで、それぞれの分科会記録者の方から報告がありました。

集会のまとめの後、実行委員の岡部真理子さんから集会アピールの提案があり、大きな拍手で採択されました。

実行委員・常任委員紹介と、副実行委員長千葉桂子さんか

ら、「私たちにはたくさんの仲間がいることを実感したと思う。今日を出発点にして、各地で小さなさざ波を起こし、点が線になり面となり、大きな波を起こしていこう」と閉会のあいさつがありました。

最後に「青い空は」を全員で合唱し、第42回国公女性交流集会を締めくくりました。

また来年もお会いしましょう!



実行委員・常任委員紹介

物販のご協力ありがとうございました

多数の方からご協力いただき、おかげさまで集会は無事成功しました。しかし、注文した品が届くのが遅い、違う品物が届いたなどの報告があり、ご迷惑をおかけしました。多数のご協力をいただき、「生うどん」が作り置きできず、製造元の規模も大きくなかったため発送に遅れが生じたこと、業者の手違いで不手際が生じたことが理由として挙げられます。お詫びとともに、今回の不手際を反省点とし、次回以降このようなことのないようにしていきます。

今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。

常任委員会から

常任委員として活動して、もうすぐ2年。高2の娘は私の活動にも理解があります。『今日は組合の会議があるから遅いよ。』というメールにも「帰りは気を付けてね。」と返してくれました。また、今年も母親大会と一緒に参加してくれることになりました。

公務員になる気は無いようですが、娘が就職する時にはもう少し良い世の中になつていくように、行政の民主化や働きがいのある職場を目指して、もう少し頑張っていこうと思っていますので今後ともよろしくお願ひします。

(常任委員 梅澤明子)